

4回生 地域課題探究（L探究）校内ヒアリング

AKB Future Project 推進委員会

○日程 2021年7月21日（水）3校時
○授業 総合的な探究の時間
○対象 4回生72名

新型コロナウイルス感染症流行により昨年度の4回生は体験できなかった校内ヒアリングですが、今年度は実施することができました。

大きな目的は、日常生活では学校関係者と保護者以外の人と接する機会が少ない生徒たちが学校外の方に慣れることです。そして、ヒアリングを通して大人の方と話すことが課題探究を進めるにあたり極めて有効であることに気づくことです。

今回の企画も「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」コンソーシアム構成団体より協力をいただきました。また、コンソーシアム以外からも4名の方よりご協力をいただいております。

1 フィールドワーク事前指導（7/14）

文化祭直前の時期でしたが、生徒たちは夏休みに向けてフィールドワークの作法と効果のレクチャーを受けました。

アポイント電話等は例年通りですが、今年度はGIGAスクールで導入されたChromebookを活用します。調査の際に自分たちの考えていることを相手に伝えるのですが、そのスライドをChromebookで作成します。また、FWの記録もClassroomのストリーム上で行います。FW先で自分たちのスマホ端末からアクセスすれば、FW直後の新鮮な気持ちで記録することが可能です。

7/21の校内ヒアリングはFWの練習も兼ねています。Chromebookの画面でスライドを見てもらいながらプレゼンし、ヒアリングの記録もClassroomに残します。一週間後の校内ヒアリングに向けて、生徒たちは分担してスライドづくりを進めました。

2 校内ヒアリング（7/21）

9団体より13名の方をお迎えすることができました。今年度の4回生には22の探究テーマがあるので、1名の来校者あたり2探究という贅沢なヒアリングが可能となりました。

〈時程〉

10:50 校内ヒアリング1セット目開始
自分たちの探究を紹介 → 質問・相談
11:10 1セット目終了 2セット目の場所へ移動
11:15 校内ヒアリング2セット目開始
11:35 2セット目終了

1セットわずか20分の中で2つの探究班がヒアリングを行うため、1班あたり約10分しかありません。生徒たちは短い時間で自分たちの考えを説明し、質問しなければならないので頭をフル回転させます。どのヒアリングも、時間が足りないイメージで終了しますが、それでいいのです。時間を持て余すよりも「もっと話したい」で終わった方が、FWへの前向きな気持ちに繋がるためです。

思い通りに進まなかった班も、予想以上に深い話までできた班もありましたが、いずれの生徒たちも豊かな学びの時間を過ごすことができました。



〈ご協力いただいた団体・事業所〉敬称略

北海道胆振総合振興局／登別市総務部企画調整グループ／登別市社会福祉協議会／登別商工会議所／登別国際観光コンベンション協会／国立大学法人室蘭工業大学／北海道教育庁胆振教育局

（以上、コンソーシアム構成団体）

登別市保健福祉部高齢介護グループ／ナスノサチエ建築設計事務所

（記録：太田）